



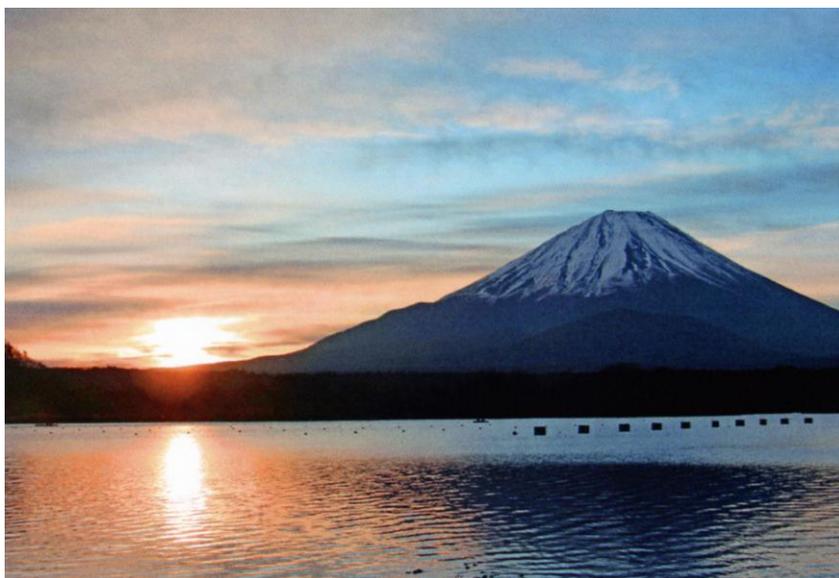
新潟県立長岡工業高等学校同窓会 東京支部会報

東京支部だより

第 23 号

発行人：支部長 金井 博光

編集：会報編集委員会



(写真提供は樋口昭氏(S29E)の世界遺産 富士山八十八景より)

世界遺産 霊峰富士は日本一の高嶺である
長工生・OBもあらゆる分野で高嶺を目指す
東京支部の会員は この富士山を関東の何処か
らか望んでいる



(東京支部 役員・顧問)

新潟県立長岡工業高等学校同窓会 東京支部

目 次

ご挨拶	支部長	金井 博光(S44M).....	1
伝統校・長岡工業高校の校長	県立長岡工業高等学校 校長	諸橋 孝二.....	1
これからの同窓会活動に向けた取り組み	県立長岡工業高等学校同窓会 会長	山崎 晃一(S46M).....	2
令和6年度(2024年)総会・懇親会報告	副支部長	原 勝英(S46M).....	3
特集記事 長工大賞と私.....			5
「長工大賞」受賞して・・・		梶山 實(S36E).....	5
特別寄稿.....			5
8年間の同窓会(本部)会長を務めて思うこと	県立長岡工業高等学校同窓会 前会長	山下 進(S40C).....	5
”信念”		早川 起生(R2m).....	6
「音楽に生きた世界的テノール 永田峰雄 ～ドイツを拠点に、その歩みと長工大賞を賜りて～」	故永田 峰雄(S47M) 妻	永田 邦恵.....	7
新役員紹介.....			8
国際協力と私	総会・懇親会担当統括理事	平山 守(S46M).....	8
同好会活動報告.....			9
LMC登山同好会 令和6年(2024年)活動報告	幹事 名簿担当理事	星 富夫(S36E).....	9
コーラスクラブ(LGC)	事務局長	成田 修(S44M).....	9
ジョギング同好会	幹事 事務局長	成田 修(S44M).....	10
ゴルフ同好会<令和6年度の活動報告>	幹事	相澤 功(S38W).....	10
会員だより.....			11
並木 政治様 追悼文	東京支部顧問	樋口 昭(S29E).....	11
「第二の故郷 大白川」	名簿担当理事	加藤 智(S40C).....	12
現役引退後の趣味	会計担当統括理事	今井 広(S46M).....	13
故片桐 謙一様(S31W)を偲んで	広報・記録担当理事	川村 吾一(S36E).....	13
対外交流.....			14
東京新潟県人会活動への参加状況	総会・懇親会担当統括理事	平山 守(S46M).....	14
令和6年度越後長岡ふるさと会総会・懇親会報告	副支部長	原 勝英(S46M).....	15
同窓会の行く末	新潟県立村松高等学校東京同窓会 会長	大橋 貞夫.....	15
若波会有志との交流	広報・記録担当理事	川村 吾一(S36E).....	16
支部報告.....			17
総会・懇親会	総会・懇親会担当統括理事	平山 守(S46M).....	17
支部会計報告	会計担当統括理事	今井 広(S46M).....	17
令和6年度(2024年)計報(2025年3月31日現在)	名簿担当統括理事	塩入 晴夫(S46M).....	17
編集後記	広報・記録担当統括理事	野崎 敬策(S46e).....	18
編集委員.....			18

な学びを重視した「新しい普通科系学科・コースの設置」、生徒が自分の所属する専門学科での深い学びを軸としながら、他の専門学科との横断的・協働的な学びを進めることができる「産業高校」の設置について示しています。

その上で、当校は、同窓生の皆様の活躍や功績を誇りとしながら、専門高校として新しい時代の地域社会の要請に応え、未来を担う工業技術者の育成を使命としております。近年、ものづくりの現場は、デジタル化やグローバル化が急速に進み、求められる人材像も大きく変化しています。こうした時代の変化に対応するため、従来からのものづくりの基礎教育に加え、プログラミングやIoTなどのデジタル技術教育を行うとともに、実習や課題研究を通して問題解決能力や創造性を養う中で、地域で活躍できる人材を育成することを目指し、教職員一同が一体となって取り組んでおります。そして、生徒らも、長工魂を受け継ぎ、「業も巧みの誉を挙げて 国の栄えを図らん」と日々努力しております。

結びに、長岡工業高校は、これからも同窓会の皆様との連携を深め、母校の更なる発展に努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

末筆ながら同窓会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*

これからの同窓会活動に向けた取り組み

県立長岡工業高等学校同窓会 会長 山崎 晃一(S46M)

2025年今年己(み)、蛇です。干支は12種類の動物であらわされますが今年の己は6番目に来る干支で蛇を表しています。

己(み、へび)は、神様の使えとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルにもなっています。そのため己年は再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年になると言われております。また「己」を『実』にかけて「実を結ぶ」年とも言われるようです。



この再生や変化の年に東京支部の皆様、令和6年5月25日定時社員総会において前任の山下進会長より引き継ぎ、県立長岡工業高等学校同窓会の会長を拝命しました山崎晃一と申します。

私は昭和46年機械科を卒業しており、伝統ある本校同窓会の期待に応えられるよう、微力ですが尽力したいと思っております。

会報誌にも記載いたしました私には同窓会の監事、理事、副会長と携わってまいりました。理事会の構成メンバーは私を含めて平均年齢が70歳を越えており、今後同窓会を維持していくことが難しい状態になることが予想されます。

そこで今後の同窓会の若返りと組織の改革に取り組む必要があると考えております。

若返りについては就任後4名の50歳代の同窓生を理事に迎え、組織改革では環境に対応した運用を考えて行かなければならないと思っております。

本校の卒業生は昔と違って卒業後は進学する生徒が増えていたこともあり、同窓会費の未納者が増えており対策を打たないと数年後には運営が難しくなってきます。

これは本校同窓会だけの問題でなく新潟県内高等学校同窓会長有志懇談会においても同様の問題で各学校でも同じような意見が出ておりました。

以前は厄年の方が同窓会の幹事として100周年をまとめておりましたが、その後はこのような運用が難しくなり支部組織もなくなってきたのが現実です。

地域支部の活性化、各企業支部の支部長会議の開催など同窓会員の交流の機会を模索しながら少しずつ一人でも多くの会員に理解と協力を願い前進していきたいと思っております。

今後、若者も人口が減少する中、県教育委員会は9年後の県立高校は22校減、急速な少子化や社会の変化に対応するために中長期を見据えた魅力と活力ある学校づくりで説明会を開催しております。長岡周辺エリアは17学級減で本校においては学級数が5クラスになるとされております。

長岡市においても、人口減少や少子化高齢化による生産年齢人口の減少は、ものづくりにおける

事業継続を困難にする大きな問題であり「人」の観点からデジタル化による人手不足対策や生産革新を行うためデジタルものづくり人材育成の強化を掲げております。

新潟県や長岡市など政策の変化で学生たちの環境が変わりつつあります。

このような変化に学校側と常に情報交換をしながら問題に対処していきたいと思っております。

東京支部の皆様には更なる発展とご活躍、また、活力ある同窓会にさせていただきようよろしくお願いたします。



令和6年度(2024年)総会・懇親会報告

副支部長 原 勝英(S46M)

令和6年度の総会・懇親会は、7月6日(土曜日)に開催されました。

当日は、晴れており総会・懇親会日和となりました。出席者は、会員57名、来賓、関係団体14名の71名の方が出席されました。ただ残念なことは、平成30年の会員出席130名、令和元年97名、令和2年、令和3年、令和4年はコロナ感染が猛威を振るい中止となりました。再開後の令和5年は73名と年々会員の出席者数が減少しているため、早急な対応を迫られております。



(金井支部長挨拶)



(同窓会本部長挨拶)



(諸橋学校長挨拶)



(受付)



(松永様功労賞表彰)



(マンドリンクラブOBの演奏:左から風間、吉田、椎野、穂苅、熊木の各氏)



(歓談風景)



(舞さくらさん熱唱)



(はじめの佐渡おけさ)

令和6年度（2024年）長工同窓会 総会・懇親会 出席者名簿

No.	会員NO	卒業年	科別	氏名	No.	会員NO	卒業年	科別	氏名
1	S20M0460	昭20	機械	松永 巖	40	S40M041B	昭40	機械	吉澤 修
2	S25M0370	昭25	機械	疋田 精俊	41	S42M025D	昭42	機械	白井 等
3	S29E0260	昭29	電気	土田 弘明	42	S43M002C	昭43	機械	浅間 文夫
4	S29E0360	昭29	電気	樋口 昭	43	S44E044B	昭44	電気	渡辺 実
5	S30W0060	昭30	染織	内山 正之	44	S44M010B	昭44	機械	金井 博光
6	S31M035B	昭31	機械	若井 秀治	45	S44M030B	昭44	機械	成田 修
7	S31E0080	昭31	電気	大関 稔	46	S44M032C	昭44	機械	永井 利矢
8	S31E0130	昭31	電気	光野 条夫	47	S44M038C	昭44	機械	山崎 正二
9	S31E0270	昭31	電気	田中 慶次	48	S45M030D	昭45	機械	星 紀夫
10	S31W0010	昭31	染織	相沢 勝史	49	S46E026B	昭46	電気	奈良場 慶三
11	S31W0070	昭31	染織	大竹 誠次郎	50	S46M003D	昭46	機械	今井 広
12	S31W0120	昭31	染織	片桐 謙一	51	S46M014D	昭46	機械	児玉 幸一
13	S32E0050	昭32	電気	貝瀬 利一	52	S46M020C	昭46	機械	塩入 晴夫
14	S33E0100	昭33	電気	小黒 友勝	53	S46M027A	昭46	機械	原 勝英
15	S33E0140	昭33	電気	小出 正道	54	S46M028A	昭46	機械	平山 守
16	S33E0160	昭33	電気	小林 栄	55	S48e0260	昭48	電子	速水 均
17	S33E0390	昭33	電気	山川 昭男	56	S48E026B	昭48	電気	永見 健治
18	S33M009A	昭33	機械	大橋 淑宏	57	S50M036A	昭50	機械	中村 核
19	S34M015A	昭34	機械	木村 誠宏					
20	S34C0330	昭34	化学	伏黒 三夫	母校				
21	S34M008A	昭34	機械	大淵 平佑	58	学校長			諸橋 孝二
22	S36E0050	昭36	電気	今井 幸夫	本部関係				
23	S36E0080	昭36	電気	大嶋 實	59	同窓会会長	S46M		山崎 晃一
24	S36E0110	昭36	電気	梶山 實	60	前同窓会会長	S40C		山下 進
25	S36E0120	昭36	電気	勝沼 正敬	61	事務局長	S50e		三川 俊克
26	S36E0140	昭36	電気	川村 吾一	若波会				
27	S36E0310	昭36	電気	阪西 保	62	会長			藤下 幸伸
28	S36E0350	昭36	電気	廣井 均					
29	S36E0370	昭36	電気	星 富夫	63	演歌歌手			舞 さくら
30	S36W0370	昭36	染織	平澤 司郎	村松高校				
31	S37e0150	昭37	電子	木間 勝	64	顧問・相談役			金子 鶴男
32	S37e0160	昭37	電子	齋藤 衛	65	会長			大橋 貞夫
33	S37e0210	昭37	電子	志村 直温	66	副会長			佐藤 赳
34	S37e0220	昭37	電子	鈴木 久仁於	67	副会長			平山 誠一
35	S37M019B	昭37	機械	椎野 信	68	総務副委員長			郡司 正大
36	S37M026A	昭37	機械	高橋 勝次	69	広報委員			難波 幸博
37	S38W0010	昭38	染織	相澤 功	70	事務局員			林 信子
38	S38W0200	昭38	染織	関根 讓	71	総務委員			岡 信子
39	S40C0130	昭40	化学	加藤 智	合 計				71名



特集記事 長工大賞と私

「長工大賞」受賞して・・・

梶山 實(S36E)

令和6年6月15日忘れられない1日にさせていただきありがとうございました。私の様なものでも長工大賞にご推挙いただき感謝申し上げます。

昭和36年3月、神奈川県川崎市にある東芝小向工場に入社して、白黒テレビの開発設計課に配属されました。間もなく、東芝小向山岳部に席を置き、毎年、元旦に登頂する目標を持って運動などしておりました。昭和39年北アルプス鹿島槍登頂、昭和40年南アルプス駒ヶ岳・千丈岳、昭和41年北岳など、冬山登山の厳しさ（転落・凍傷など）を味わって来ました。



そこで培った忍耐力を持ってすれば「仕事なら何でもOK」と自分に暗示をかけていました。

昭和42年（25歳）で結婚して、カラーテレビの開発部門に転籍、システム設計から商品企画の業務に従事し、営業部門からの要望を設計部門に橋渡ししました。

昭和58年技術管理課長を拝命して、技術部門全体の活性化や効率化を推進する。中でも技術部門のコンピューター化を提案して、全社経営会議で承認いただきました。3年で約100人の効率化を達成して、家電部門の各工場に手法を広めました。この頃が最高でした。

平成元年10月新設の本社・ビデオ事業部の業務担当を命じられ、慣れない仕事で苦労が始まりました。業務は事業部長からの特命事項で、経営会議の主催、営業部門との折衝など理屈に合わないことも多く、挫折感を味わいました。8年後、55歳で東芝を定年、関連会社に移りました。

昭和43年長男が誕生、病弱で病院に行くと先天性の染色体異常と診断された。この関係で深谷に来て障害者団体「深谷市手をつなぐ親の会」に入ることになり、ここでの活動が60歳の定年になると会長職が回って来て、県の理事を頼まれ、深谷市の障害者福祉の多くの会議に呼ばれ、また、上部団体「埼玉県手をつなぐ育成会」の県大会の深谷開催をするなど、会社で培った「組織の動かし方、人の使い方、お金の管理」などが役に立ちました。

東芝深谷OB会では総務担当副会長として、事務処理コスト削減など実施して会の存続を図りました。また、同好会では平成18年パソコン教室（深谷シニアPC）開設、ホームページの作成、Zoomミーティングの開催など推進しました。

平成16年彩の国いきがい大学熊谷学園を卒業してパソコン教室（28期PC）を開設しました。また、平成22年ふかや市民大学に入校して、卒業後、市民大学パソコンクラブを結成しました。

性格は寡黙でおとなしく粘りがあるところですが、**厳しい社会の荒波にもまれ、作った会は壊さない、育てる**をモットーに進めて来ました。しかし、現在、83歳、体力・知力・行動力がある限り社会貢献を続けて行きたいと思えます。



特別寄稿

8年間の同窓会（本部）会長を務めて思うこと

県立長岡工業高等学校同窓会 前会長 山下 進(S40C)

平成28年（2016年）6月に、長工同窓会馬場名誉会長の後を受けまして会長を拝命し、昨年の5月をもちまして山崎会長にバトンタッチし、退任させていただきました。同窓会会員の多くの皆様方からの心温まるご指導、そしてご鞭撻をいただきながら4期8年会長を務めさせていただきましたこと、只々感謝でございます。

特に東京支部会員の皆様からは格別なご協力とご配慮を賜りましたこと、この場を借りまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

これからも「長工同窓会」へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



振り返ってみますと、拝命した時は同窓会のことも、卒業後の母校のことも、そして長岡を中心とする産業界のことも、何も知らないのが実情でありました。母校近くに住んでおり、会長を断る理由もなくお引き受けしましたが、今思い起こしますと、無知の強さだけで会長を引き受けてしまったこと、汗顔の至りであります。

・母校校長が同窓会長？

そんなこともあり、まずは同窓会のことを勉強することにいたしました。

母校創立100周年記念誌「越の廣野百年」には、10頁にわたり「同窓会の歴史」が掲載されておりましたし、また同窓会からは「同窓会百年のあゆみ」が発刊されておりました。身近に立派なテキストがあり、勉強する身としては大変ありがたく、難儀をされた諸先輩の皆様方には感謝であります。

そこで初めて知ったのは、明治39年発足から昭和34年の現在の同窓会組織の間は、母校校長が同窓会会長を兼務されていたことでした。(何故、現在の組織になったかについては残念ですが明記されてはおりませんでした。)

東京支部だより第22号に、母校前校長 長井英幸氏が「地域に貢献する人材の育成」と題して掲載されております。その中でPTA・同窓会については、開かれた学校づくりで学校の良きパートナー、サポーターとして連携を図る、とあります。私は学校内部にはPTA・後援会がありますので、同窓会の役割は学校と外部・社会を結ぶことであり、本会の目的である会員相互の理解と親睦を図ること、母校の持続的な発展に寄与することを改めて再認識いたしました。

・同窓会への関心をが一失敗に

若い会員の皆さんから、もう少し同窓会に関心をもっていただき、身近に利用してもらいたいと思いました。

今もそうですが、その当ても職業のミスマッチが大きな社会問題となっていました。そこで職業紹介事業を手掛けましたが、残念ながらそれ継続するに至りませんでした。同窓会会員には、仕事を通して会得された様々な技術、技能をお持ちの方が大勢おいでです。これを利用できないかと考えての試みでしたが、時期尚早だったのでしょうか？結果を残すことはできませんでした。

・母校のパートナー、サポーターの継続を！

コロナ禍の最中、十分な準備もできずに母校120周年記念事業を行い、お陰様で盛会の内に終えることができました。またとない時に、会長を務めさせていただきましたことは、とても良かったと思っています。

記念事業を通しては、母校も社会も大きく変わり、物づくりも物から多様なものづくりへと変化していることを学ばせていただきました。

同窓会がこれからも母校のパートナー、サポーターとして、物づくり・ものづくりは勿論のこと、母校とともに者（人）づくりに大いに貢献していただきますことをお願いいたしまして、この任を終えたいと思います。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*

” 信念 ”

早川 起生 (R2m¹)

『Kio!kio!』

フランスでの大会中、僕は世界中のライダー達がいる中、ステージ上に呼ばれた。僕の帽子はその瞬間からレッドブルの帽子に変わった。僕はレッドブルライダーになった。レッドブルライダー達のサプライズだった。後でたくさんの人の協力があり計画してくれたことを知る。



3年前、19年ぶりにXgames²が日本に初上陸した。世界中の選手が招待状を待ち望

¹ (R2m)の「m」は、新設された電子機械科の略称。

² Xgames は、スケートボードやBMX、スキー、スノーボードなどのアクションスポーツにおける国際競技会名。BMX (Bicycle Motocross) は、自転車競技の一種で、モトクロス自転車での競技の略称。

む。僕はリザーバーとして招待された。悔しかった。招待されないと出場できないXgames。20歳だった僕は実績も経験もまだまだ足りない、どうにもできなかった。ただ技の準備はしていた。会場入りし突然ダブから連絡が入る。僕の代わりに出場しろと。彼は僕がリザーバーであることを知らない。気持ちが本当に嬉しかった。必ず優勝すると彼と約束した。

僕がBMXを始めた時から活躍しているライダーと戦う。興奮とともに見えないプレッシャーが僕を襲う。緊張からなのか震えが止まらない。でもやるしかない。自分のやってきたことを信じるしかなかった。優勝。僕の考えた技が評価された瞬間だった。そして、どうしても今大会のXgamesで優勝したかった理由、19年前優勝したのがサイモンだった。僕が最も憧れているライダー。どうしてもサイモンからのバトンを受け取りたかった。



運命なのか、今大会のジャッジはサイモン。僕がまだアマチュアだった頃、偶然見た動画に衝撃を受けた。それがサイモンだった。それからサイモンの動画を見続けた。そして、彼にメッセージを送った。無知だった僕は彼がレジェンドライダーとは知らず。数日後サイモンから返事が届き僕とサイモンのメールのやり取りが始まった。中学生だった僕は先生に聞きながら一生懸命英語を理解した。そして、数年後サイモンはオーストラリアの自分のチームに僕を招き入れてくれた。

今現在も僕はサイモンとチームメイトだ。僕はBMXを始めて今年で11年目になる。僕のBMX人生においてたくさんの出会いがあり、たくさんの人が力を貸してくれ、支えられてここまでやってきている。海外大会ではたくさんの国から集まっても一つのチームになる。彼らはみんな家族だと言う。成功したら拍手をし、失敗したら次必ず成功するよと言う。みんな笑顔。笑顔は連鎖し結果みんなが楽しそうにしている。そんな笑顔の連鎖に僕は何度励まされたかわからない。



そんな思いも伝えていきたい。僕に何ができるわからないが僕がしてもらったことは必ず返していきたい。未来を切り開くこととは、人からいただいた思いやりの心を僕なりの方法で返し続けていくことだと思っている。思いやりとは僕が最も大切にしていることだ。だから僕はBMXに乗り続け応援してくれる人のために勝ちたい。そして、単純にBMXが好きだから乗り続ける。



「音楽に生きた世界的テノール 永田峰雄 ～ドイツを拠点に、その歩みと長工大賞

を賜りて～」

故永田 峰雄(S47M) 妻 永田 邦恵

令和6年に長工大賞を授与いただきました、故・永田峰雄の妻、永田邦恵と申します。

このたび、栄えある長工大賞を賜り、大変光栄に存じます。これもひとえに皆さまのご支援とご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

夫の生前の活動について、賞状の文を引用させていただき、ご紹介いたします。

「あなたは、母校在学中にマンドリンクラブに在籍し、将来はオペラ歌手になることを目指して、尚美高等音楽学院（現・東京コンセルヴァトアール尚美）、東京藝術大学および大学院へ進学し、声楽や尺八を学びました。その後、1986年第1回日本モーツァルト・コンクールで優勝。

さらに、1988年と1989年にザルツブルク・ゾンマーアカデミー・コンクールで2年連続優勝し、モーツァルトウム音楽院最優秀賞を受賞。1991年にはアサヒビール芸術文化財団の奨学生として渡欧



昭和59年 11月 1日 撮影
 永田 邦恵 (妻) 撮影
 OPERA ZAUBERFLORE "A. Mozart Tokyo, Shinjuku
 1986 NEW NATIONAL THEATRE, TOKYO

し、ザルツブルク音楽祭に出演、1992年にはライブツィヒ歌劇場と客演契約を結びました。1993年にヴェルツブルク歌劇場、1995年にトリーア歌劇場、1996年にギーセン歌劇場、1999年にボン歌劇場、2001年からはミュンスター歌劇場の専属テノール歌手となり、活動の場をドイツおよびヨーロッパへと拡大。

2004年には、最優秀オペラ歌手としてフォルクスビューネ・ミュンスターから表彰され、ヨーロッパ各地の歌劇場で歌唱・客演するなど、日本を代表するテノール歌手として活躍しました。

また、生まれ故郷である長岡市をはじめ、全国各地のコンサートやリサイタルにも数多く出演。帰国後は、東京藝術大学、愛知県立芸術大学、洗足学園音楽大学で後進の指導にも尽力しました。

弛まぬ努力と真摯な精進によって、高校生の時に抱いたオペラ歌手になるという夢を叶え、日本を代表するテノールとして活躍した姿は、多くの人々の模範となっています。

これまでの功績に敬意を表し、ここに「長工大賞」を授与します。」

私が夫と初めて出会ったのは、2006年、ウィーン郊外ランゲンロイスという町での夏の音楽祭でした。夫はレハール作曲のオペレッタ「微笑みの国」に出演しており、私は夏期短期留学の一環として声楽を学びに行った際、偶然にもその公演を観る機会を得ました。

夫が最初に発した一声から、これまでに経験したことのない声の響き、美しく明瞭な言葉、そして音楽の細部に至るすべてに意味と心が込められていることに驚き、大きな衝撃を受けました。これが、オペラの本場・ドイツの歌劇場で長年活躍する、本物のオペラ歌手なのだと知りました。



その後、ご縁があつて家族となりましたが、夫は2020年、闘病の末に他界いたしました。最も敬愛する音楽家であり、かけがえのない夫であり、心の支えでもあった存在を一度に失い、いまだに現実として受け止めきれないこともあります。それでも、彼の人生の一端にかかわることができたことを私は誇りに思っています。

皆さまにも、もし機会がございましたら、永田峰雄の音楽に触れていただければ幸いです。



新役員紹介

国際協力と私

総会・懇親会担当統括理事 平山 守(S46M)

総会・懇親会担当統括理事の平山守です。他の役員の方々と力を合わせて同窓会活動を盛り上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

私は昭和46年(1971年)3月に機械科を卒業し、当時の日本電信電話公社(NTT)に就職しました。入社から20年位は、通信線路設備の運用および保守業務、建設業務、設計業務、通信用資機材の国際調達業務、設計支援システムの開発業務および研修業務に従事し、その後NTTを退職するまでの20年弱は、電気通信技術者として、日本政府が開発途上国を支援する国際協力活動に携わりました。



NTT退職後は、通信コンサルティング会社に就職し、約15年間、日本政府の国際協力活動の一環と

して複数の通信プロジェクトに参加しました。

NTTおよび通信コンサルティング会社在籍中に仕事で訪問した国は、アジア11か国、アフリカ13か国、そして中南米4か国になります。またこの中で1年以上滞在した国は、青年海外協力隊（現在は、JICA海外協力隊）で派遣されたケニアが2年間、JICA技術協力専門家として派遣されたホンジュラスが3年間、そして同じくJICA技術協力専門家として派遣されたベトナムが2年間で、それぞれ通信設備の保守業務、新技術の技術移転および研修センターの運営能力向上に携わりました。

開発途上国の社会および経済の状況は日本とは大変異なり、日本など先進国の支援が必要となっています。日本政府は、昭和30年（1955年）から、アジア、アフリカ、ヨーロッパおよびや中南米において、保健・医療、農業・漁業、教育、電力、道路、鉄道、情報通信など、多岐に渡る分野で支援を行っており、その活動は現在も継続され、多くの国々から感謝されています。そして、その国際協力にかかわることができたことを私はとても幸せに思っています。

現在は通信コンサルティング会社の仕事も終え、非営利活動法人(NPO)で、国内外で支援が必要な人達に対して、情報通信技術(ICT)を活用して支援する仕事に携わっています。

最後になりましたが、長岡工業高校の学生および教職員の皆様、そしてOBの皆様の更なる発展を祈念いたします。



同好会活動報告

LMC登山同好会 令和6年（2024年）活動報告

幹事 名簿担当理事 星 富夫(S36E)

令和6年の新年山行は、1月17日（水）晴、参加者5名、藤野駅から日連アルプスを歩いて藤野駅に戻るコース。下山後、新宿駅西口郵便局近くの花の舞にて新年会9名参加して、賑やかに開催された。花見の会は3月30日（土）上野公園で歩きながら花見して、宴会は県人会館の会議室にて若波会と共同で我が長工からは12名参加し、賑やかに行われた。



夏の山行の尾瀬ヶ原と至仏山登山は7月8日新宿バスタから夜行バスで鳩待峠まで行き、富士見峠経由竜宮小屋、山の鼻泊、翌日山の鼻から至仏山の登山、参加者4名7月10日帰宅。

秋の山行は10月1日（火）新宿バスタから夜行バスで鳩待峠まで行き、富士見峠、皿伏山、尾瀬沼に下り、ここで泊まる。翌日、沼山峠経由七入りまで下り、桧枝岐で風呂に入り昼食後夕方のバスで野岩鉄道の会津田島駅に出て帰宅、参加者2名。忘年山行は12月18, 19日、赤城山の五輪峠までジャンボタクシーで行き、積雪を踏みしめながら、足柄山、陣笠山、薬師岳、野坂峠、出張山から峠経由湖畔の宿青木旅館にて宿泊忘年会。翌日は宿からスキー場経由で歩き、見晴山登り、大沼湖畔へ下り、青木別館でワカサギ昼食会を行い、ジャンボタクシーで前橋駅に帰った、参加者8名。楽しい忘年山行でした。会員も高齢化が進んでおり、新会員を募集しております。一緒に山歩きましょう。連絡先：S36E 星 富夫 E-mail:hoshie36@dune.ocn.ne.jp まで連絡ください。



コーラスクラブ(LGC)

事務局長 成田 修(S44M)

途中入会の私が紹介するのもおこがましいのですが、コーラスクラブ（LGC：リパティ・グリーン・クラブ）を紹介します。クラブ名を直訳するならば”自由・男性合唱団”というところでしょうか。毎月1回、文京区の市民センターの音楽室を使用して、2時間程度の練習を行っております。インストラクターは勝沼様(S36E)です。

勝沼様は若い頃に職場や職域の合唱団、最近では地域の合唱団のメンバーとして活躍されており、音楽に対する豊富な知識と経験を持っておられ、いつもの確かなアド



バイスでクラブ員の指導に当たられております。前任の方は同窓ではありませんが、美人の女性インストラクターでした。残念ながら私はこの女性のインストラクターから指導を受けておりません。過去の支部総会で一度、LGCの成果発表時に壇上で指揮をとって頂いたことがあったことを思い出します。



定例の練習会後は御徒町のサイゼリアに移動して、ワインとピザなど定番の一品料理を堪能しながら食事会を行っております。近況報告やら支部活動の情報交換やら、こちらも有意義の一時になっております。歌を歌うなど、お腹から声を出すことは脳を活性化させ、ボケ防止にも効果があると聞いたことがあります。” やってみ



ようかな”と思われる方は是非、クラブ幹事の星様(S36E)にお声を掛けてください。

◆*

ジョギング同好会

幹事 事務局長 成田 修(S44M)

毎年、定例の春季大会として位置付けている”第33回・かるがもファミリーマラソン大会”に参加した。競技参加は永井(S44M)氏と成田(S44M)、応援参加は原(S46M)氏の都合3名でした。天気も良く、風もそれほど強くなく、走りやすいコンディションの中でのスタートとなりました。



コースは保土ヶ谷公園の外周(2.5km)を周回するコースで永井氏は2周(5km)、成田は4周(10km)しました。結果は永井氏が30分少々と好タイムで完走しましたが、成田は後半少しばてたせいか、1時間1分少々と昨年大会より大きくタイムが後退してしまいました。(昨年より3分程度遅い。)



大会終了後は会場前で記念撮影をした後、横浜駅近くの「甘太郎」で美味しいビールを飲みながら情報交換を行いました。

◆*

ゴルフ同好会<令和6年度(2024年)の活動報告>

幹事 相澤 功(S38W)

★第23回春のゴルフコンペ 4月18日(木) 東京湾カントリークラブ

参加6名 優勝 野澤勇(S33M) 2位 吉荒健司(S34M) 3位 相澤功(S38W)
事前天気予報は当日晴れの予報が急変不安定に変わり心配しましたが、終日くもり空でのプレーになりました。幸い、雨には降られずに助かりました。ただし、今回も参加人数増が回復せず、当初名予定が6名になりましたがお馴染みのメンバーで和気あいあい楽しくプレーできました。

★第24回秋のゴルフコンペ 10月15日(火) 東京湾カントリークラブ

参加9名 優勝 野澤勇(S33M) 2位 永井利矢(S44M)
3位 永見健治(S48E)

◆野澤勇さんが23, 24回と連続優勝でした。スコアもベスグロでした。立派!

当日は夏日の戻りで30度前後と暑さの中でのプレーでしたが雨天を思えば贅沢を言えません。野外のスポーツは晴天が何よりも嬉しいです。



- ① 特筆すべきは昭和33年卒組同好会会長山川さん始め、小黑さん野澤さんの3名の85歳組が元気で参加されて活躍されていることに感動を受けています。
- ② プレー終了後、長浦駅前の〈養老乃瀧〉で原副支部長（腰痛のためゴルフは不参加）含む7名の懇親会で大いに盛り上がり、次回の再会を約し散会しました。

今年（令和7年）の活動予定

★第25回春の同好会ゴルフコンペ 4月16日（水） 東京湾カントリークラブ

★第26回秋の同好会ゴルフコンペ 10月中旬頃予定 東京湾カントリークラブ



会員だより

並木 政治様 追悼文

東京支部顧問 樋口 昭(S29E)

並木 政治様（第3代長工同窓会東京支部支部長）

樋口 昭（第4代長工同窓会東京支部支部長）

ご家族の方から1月23日、並木政治さんが、昨年12月に急逝されたとの連絡をいただきました。生前、並木政治さんにはご指導ご支援をいただき大変お世話になりました。心から哀悼の意を表します。

並木政治さんは昭和28年染色科の卒業で、在学中は水泳部に所属し、大活躍されました。平成2年から26年まで新潟県マスターズ水泳大会で数々の記録を樹立されました。最終職歴は大手ゼネコンの営業部門を勤められました。

私と並木さんとの出会いは、応援歌の練習の時でした。当時はまだ、軍律精神が残っていて、先輩、後輩の序列は厳しく、各学科の序列もありました。1番は染織、機械、化学、電気科でした。このような環境下での応援歌の練習により「強靱な精神訓練」と「強固な長工魂」を体得されました。染色科で頑健な並木さんは威厳に満ち溢れていました。

東京地区は、各学科で個別に同窓会行っておりましたが、昭和50年代初頭に星野周助(S6W)さんが関西地区から東京地区に転居され、「長工同窓会を個別行うことは長工精神に反する」と強い意思で各科の要員会議を行いました。その時に並木さんに久々にお会いいたしました。統一同窓会の初めは、総会は各学科、懇親会は合同で行う等々の紆余曲折があつて昭和54年に星野周助さんが初代支部長に就任され今日に至っています。

並木さんは「長工精神」を守り、常に理正しく、伝統精神を重んじ、秩序を守り、情に優しい人でした。その功績は多く、紙面の都合上その一部をご紹介します。

平成13年、「東京支部だより」出版の議題がありましたが、否決されました。その後、並木さんは出版の必要性を説かれ、翌々年に第一回の出版にこぎつけました。

平成16年、第3代支部長推薦を固くご辞退されました。その理由として第3代候補者を飛び越えることはできない、「初代染織、2代電気、3代は機械が順当に人事である。」と理路整然として固辞されました。しかしながら、諸般の事情で、第3代支部長にご就任いただき、ともに本部の副会長に任命されました。

当時はまだ各学科の思想が一部ありました。並木支部長は「同窓会活動は組織であること」を強くご指導いただき、会員増強委員会を作り活動いたしました。等々で名実ともに「長工同窓会東京支部」となり今日に至っております。

平成24年に支部長をご退任され、以降、顧問として適切なお指導をいただきました。

平成25年、上野文化センターにおける総会の時に、若波会が同センターで公演されており、長工看板を見て、「並木さんの知人から、若波会の出演の申し出」があり、お願いいたしました。以後、友情関係が築かれ、今日に至っております。

平成26年に長工の発祥校村松高校から同窓会の姉妹関係を結びたいとの申し出があり、並木さん



から素晴らしいこととの助言をいただきました。翌27年に「越後長岡ふるさと会」へも積極的に入会をご指導いただきました。我が同窓会も会員数など難問があり、「他分野、異業種交流を行い、見識を深め、価値観の多様化の時代」とのご指導をいただきました。

平成30年に長工同窓会東京支部の「中興の祖」、同窓会への功績、新潟県マスタース大会の功績を称え、「長工大賞」を受賞されました。加えて東京支部から諸功績を称え感謝状を受賞されました。

〈並木政治さんの格言〉

長工精神があつて同窓会がある

「中興の祖」並木政治さんのご尽力に敬意を表し心底から感謝を申し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



「第二の故郷 大白川」

名簿担当理事 加藤 智(S40C)

兄の友達3人と初めて大白川に行ったのは1961年中学2年の時です。只見線の大白川駅から少し山に入ったところで、破間川の支流の小沢でこんなところにイワナがいるのかと思いましたがいましたねえ。私は釣れませんでしたが驚きでした。宿は浅井さんという民宿でした。



その後、1965年に東京、昭島のHOYA昭和工場に就職し、ソフトテニス部の仲間と1970年に兄とともにイワナ釣りに行きました。イワナ釣りは3回ちょんちょんしてから竿を上げました。当時のエサは ミミズでした。その後は毎年テニス部の仲間と大卒同期の人と出かけました。



(オセ七の宿)

1979年5月に宿が変わり、オセ七さんに初めて宿泊、登山家の三浦雄一郎氏と玄関で会いました。後日、宿の主人から浅草岳の山麓にスキー場を設計するためにいらしていたと聞きました。オセ七さんは春の山菜料理で素材の味を引き立たせる味付けは抜群で食事が毎回楽しみになりました。

2010年頃から秋はキノコ料理、獅子鍋、熊汁、イワナの骨酒などで満足、満腹になりました。2011年から秋は2泊3日で1日目はオセ七さんでキノコ料理を楽しみ、2日目は違う温泉宿に泊まるようになりました。また、近場の観光も楽しみました。只見湖、田子倉湖、寺泊、村上、弥彦神社、山古志村など。イワナ釣りは主に浅草岳の麓の破間川の支流にある白崩沢で、時に、右沢、左沢に行きました。最大20匹、坊主の時もありました。左沢へは右沢中腹から山を越えて釣りに行きました。破間川の上流に立唐岩があり壮大で毎回見に行きます。紅葉が映えております。



(立唐岩)

春は山々の残雪が素晴らしく、谷川岳、八海山、越後湯沢付近のスキー場、守門岳、浅草岳など。秋は紅葉ですね。特に国道252号線（只見線とほぼ並行）の紅葉も凄いです。春の食事は、山菜、ウド、アザミ、ワラビ、ゼンマイ、ウルイ、根曲竹の煮漬物、こしあぶら、タラの芽、うどの芽、コゴミなどの天ぷら。特に卵を入れたアケビの新芽は好評でした。秋の食事は、キノコはナメコ、舞茸、トンビ舞茸、平茸などの漬物、天ぷらです。魚はアユかイワナが出ました。

46年ほどですが大白川のオセ七さんにお世話になつてます。



現役引退後の趣味

会計担当統括理事 今井 広(S46M)

私も50年間の会社勤めを辞めてから早いもので4年が経過しました。

辞めてからの1年間ほどはゴルフをやったり旅行に行ったりしましたが、次第にこれでいいのかなと思ひ、何か趣味を持ちたい気持ちが強くなりました。もちろんゴルフも旅行も立派な趣味であると思いますが、あまりお金を掛けない趣味はないものかと考えました。



考えた結果、独身時代にやっていた料理の趣味はどうかと思ひ、書店に行き料理の本を買って数々の料理を作っては奥さんの評価を仰ぎました。しかし、奥さんの評価が良かったのは卵焼、味噌汁と肉野菜炒めだけであり、その他は不評であったため、悩んだ結果、今度は画でも描いてみようと思ひ、YouTubeで様々な画の動画を見ました。

油絵、水彩画、鉛筆画等々のたくさん動画を見ましたが、その中で度肝を抜かされたものが動物のリアルな色鉛筆画でした。こんな画を描けたらいいなと思ひ、色鉛筆を買っていろいろな画を描き始めました。少しずつ面白くなり、気が向いた時に描いています。描いている時は、時間を忘れて日付が変わることもあります。

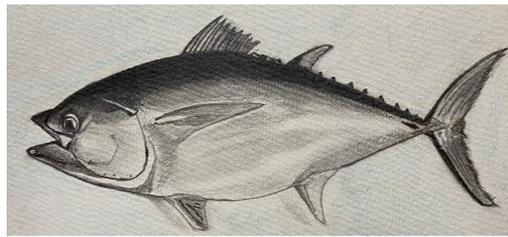
下記に私が描いた鉛筆画の一部を紹介します。

今後も気力が続く限り描き続けたいと思っています。

追伸：毎日の掃除、洗濯、食事の後片付けも私の仕事であり趣味？です。



(トラ吉)



(マグロ)



(オニヤンマ)



故片桐 謙一様(S31W)を偲んで

広報・記録担当理事 川村 吾一(S36E)

片桐 謙一様は昨年秋頃よりご自宅のある横浜市内の病院で入院療養されておりました。片桐さんの娘さんが適宜付添いされていると伺っていました。同氏は長工同窓会東京支部で役員として長きにわたりご活躍され、昨今も継続して親しくご交誼戴いている間柄でした。

片桐さんのお見舞いと体調の近況を伺うため、1月27日川村から電話を入れました。即座に電話口に娘さんが出られ、厳しい体調とのお言葉を戴きました。

その後、娘さんの意向で片桐さんご本人が電話口に出られ、私は短時間でしたが肉声で情報交換が叶いました。ご本人はしっかりした口調で話されており、主治医の指示に従い、療養に専念されるようお願いしました。最後に電話見舞いのお礼を賜りました。

片桐さんと電話で情報交換した2日後の1月29日に誠に残念ながらご逝去された旨、お知らせを戴き、驚きました。

心より謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

横浜市内で2月5日片桐さんのお通夜があり、東京支部役員の金井支部長はじめ樋口、山川、原、永井、成田、星各位と川村並びに生前交流の深かった若波会 前相談役 斉藤 実様共々ご焼香し、これまでの温かくかつ、深甚なるご交誼を賜りましたことへの感謝の意を表しました。

片桐さんは長工染織科を昭和31年に卒業され、その後横浜市役所に就職されました。持ち前の立派な能力とセンスを活かされ、長年のご活躍は周知の事実です。

長工同窓会東京支部において後年は監査役でご尽力されました。同好会では合唱(LGC)で我々と毎月練習するとともに練習後の昼食会やカラオケも同席され、”演歌”はセミプロ級でした。片桐さん

は、”日本の伝統芸の一つである〈かつぼれ〉の踊り”に正にプロ級の実力を発揮されました。

〈かつぼれ〉の踊りは毎年7月に開催の東京支部同窓会総会・懇親会や東京新潟県人会・芸能大会(於、都内・東天紅店舞台)、並びにご交誼を賜っている若波会・忘年会舞台にご招待され、長工グループ代表として舞台の盛り上げに貢献されました。どの会場でも拍手喝采でした。

(令和5年10月の東京新潟県人会芸能大会における片桐 謙一様大活躍写真於：都内東天紅舞台加藤 智様提供)



対外交流

東京新潟県人会活動への参加状況

総会・懇親会担当統括理事 平山 守(S46M)

新潟県人会の文化講演会が東京新潟県人会館で行われました。定員70名のところ78名の参加があり、長工同窓会東京支部からは東京新潟県人会の文化委員会委員長をお務めになる樋口顧問を含む8名が参加し、参加者は受付や会場設営の手伝いも行いました。以下に講演会の内容をご紹介します。

<講師紹介>

阿部氏は1978年に宮城県で生まれ、お父様が両津市出身であり新潟県との関わりも持たれています。

第37回 文化講演会
 テーマ：音楽家と社会
 講師：阿部 海太郎(あべ うみたろう)氏
 日時：令和7年2月11日(火)
 午後2時～4時
 会場：東京新潟県人会館
 主催：(一財)東京新潟県人会館/東京新潟県人会
 (企画・文化委員会)



(写真上：講演中の阿部氏)

今回のテーマは「音楽家と社会」ですが、その音楽の経歴としては、1999年に東京藝術大学音楽部楽理科を卒業、2001年に同修士課程を修了し、2004年にパリ第八大学に留学されました。その後、2007年にはファーストアルバムを発表、以後、多くのドラマや映画などで作曲をされています。いまだ記憶に新しい、NHKの連続テレビ小説「らんまん」では音楽を担当され、90の曲を作られたとのこと。またその曲の制作活動は高知放送局が約10分のビデオを作成し紹介されたとのこと。

<講演内容>

講演では、最初に「阿部氏と佐渡とのつながり」「これまでの作曲家としての仕事」のお話があり、続いて同氏が「ハンセン病療養所における音楽文化史の研究」を行っていること、また「奥能登地方珠洲市での音楽文化振興」を行っていることなどを話されました。そして最後は「消費社会時代において、社会貢献活動が意味するものについて」のお話をされ、その後会場からの質問に応じて講演会は終了いたしました。

ハンセン病療養所の長島愛生園(岡山県瀬戸内市)での活動は8年前から行われており、そこでは、同園の患者でもあり音楽家でもある、近藤宏氏の活動に強い関心を持たれ、同氏について詳細な調査を行うとともに、入院患者に対して音楽による慰問をされているとのこと。また、奥能登地方珠洲市では、奥能登芸術祭に参加され、



(写真上：高知放送局制作ビデオの一場面)

(写真下：ハンセン病療養所での活動を話されている講師)



2022年および2023年に、民話を題材にした朗読劇の企画をされています。

これら二つの活動の例からも、阿部氏が音楽をより深く考察され、また、地域やそこに住む人々とより深い関係を築くことを大切にされていることが理解できます。

皆様もテレビなどで、阿部海太郎氏の名前を見ることがありましたら、少し関心を持って観察してみるのも良いのではないのでしょうか。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◆*◇

令和6年度（2024年）越後長岡ふるさと会総会・懇親会報告 副支部長 原 勝英(S46M)

- 1. 日時：令和6年6月1日（土曜日）
- 2. 開始時間：理事会10：30～12：00 総会12:00～12:30 懇親会12：30～14：00
- 3. 会場：大手町サンケイプラザ 3階
- 4. 長工参加者：樋口顧問(S29E)、成田事務局長(S44M)、星理事(S36E)
加藤理事(S40C)、木間会員(S37e)、原副支部長(S46M)
(計6名)

越後長岡ふるさと会総会・懇親会が快晴のなか行われました。理事会では、司会の橋詰様が議事進行をされ、大原会長の挨拶後に令和5年度の事業報告、決算報告並びに令和6年度事業計画、予算案が報告され、満場一致で承認されました。その他の項目で私から「越後長岡ふるさと会が衰退しているのは魅力のある会ではない。しかるに魅力を出すために総会・懇親会並びに郷人会、同窓会に花火のstack席を購入できるようにして活性化を図っては」と提案。次年度に期待したいと思います。

終了後、会場を移して総会・懇親会が開催されました。長岡から市長代理の渡辺地域政策監が出席予定でしたが、所用のため欠席。そのため、大矢地域振興戦略部部長が挨拶され、大原会長の挨拶、東京新潟県人会の廣川副会長の乾杯で歓談に入りました。

歓談の途中、各郷人会並びに同窓会より自分たちの近況報告会が開催されました。我が長工を代表して成田事務局長に報告をしていただきました。懇親会では、催し物がなくお互い呑みながらいろいろな話をしました。時間の過ぎるのが早く、閉会の時間となり記憶は定かではありませんが、東京与板会桑原会長の万歳三唱で閉会となりました。なお、今回の出席団体は郷人会10団体、同窓会6団体の16団体が参加、出席者数については各団体に人数を制限した関係上55名でした。(写真：加藤理事提供)



(長岡市地域振興戦力部大矢部長の来賓挨拶)



(長工同窓会東京支部の近況報告を行う成田事務局長)



(左から木間会員、原、佐藤氏『長岡農業高校同窓会東京支部副支部長』郷人会の方)

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◆*◇

同窓会の行く末

新潟県立村松高等学校東京同窓会 会長 大橋 貞夫

同窓会の活性化は、会長以下役員が苦慮するところである。我々の東京同窓会は年々、会員の減少が続いているがやむを得ない事情が存在している。会員の補給元である母校の生徒数が減少の一途を辿っており、令和6年の生徒数が92人でほとんど郷里にいると聞く。母校の応援歌の一節に「松城健児六百が・・・」とあるが、600～800人ぐらいで推移してきた生徒数も、平成25～6年から卒業生が100人以下になり現在に至っているのだが、東京同窓会の会員増強の夢は完全に絶たれたと言える。



(令和6年度定期大会にて：前列左から3番目が筆者)

しかしながらたとえ、一人でも二人でも入会してもらった夢は完全に棄てるわけには行かない。何

故なら夢は密かな希望であり、原動力になっているのだ。現在の会員数は183名であるが、70歳以下は6名を数えるにすぎない。高齢化の波は容赦なく迫っており、会の維持が年々難しくなってきた。会のコミュニケーションを図るため、会報誌を毎年2月に発行しているが、今年66号を発行した。

会員の日常生活や出来事、考え方や意見をまとめて掲載しているが、年1回の定期大会開催とともに会員同士の絆を結ぶ大切な手段である。実は原稿を集めるのが一苦勞で、本来は年一回の投稿を楽しみに執筆していただきたいのだが、老化防止の一助になることでもあり、ぜひともご協力をお願いしたいものである。

◇*◆*◇*

若波会有志との交流

広報・記録担当理事 川村 吾一(S36E)

若波会と長工同窓会東京支部との交流は、今から20数年前に遡ります。出会いの詳細は東京支部だより第20号（記念号）令和4年6月発行版で若波会 青沼 多嘉子様 にありがたい貴重な投稿を賜っており本稿では省略します。

今回は令和6年1月から令和7年1月まで約1年間の若波会有志様と東京支部有志の交流内容をまとめました。また、川村は平成27年6月に東京支部有志6名共々鮮烈思い出の『佐渡相川・宵乃舞』に参加させて貰いましたので後段にく思い出アルバム>として掲載しました。



1. 直近約1年間の交流

年	月/日	内 容	会 場	備 考
令和6	1/27	東京新潟県人会 令和6年新年祝賀会	ホテル椿山荘東京	参加者同志懇親
	1/28	佐渡世界遺産決起大会	都内 交通会館	若波会有志からお誘い
	3/30	上野観桜会	上野恩賜公園	二次会→新潟県人会館
	6/5	佐渡おけさ 踊り練習 (東京支部総会用)	荏原文化センター	若波会のご指導戴く
	6/20	工芸美術 日工会展	東京都美術館	東京支部有志からお誘い
	7/6	長工同窓会東京支部総会・懇親会	御徒町・オーラム	若波会→郷土芸能披露
	7/15	東京新潟県人会 納涼大会	ホテル椿山荘東京	参加者同志懇親
	9/5	東京新潟県人会 芸能大会	都内 東天紅	参加者同志懇親
	9/10	東京新潟県人会 春日氏講演会	東京新潟県人会館	参加者同志懇親
	10/14	佐渡金山祝い会	都内 東天紅	若波会有志からお誘い
10/28	東京新潟県人会 作品展	東京新潟県人会館	参加者同志懇親	
令和7	1/25	東京新潟県人会 令和7年新年祝賀会	ホテル椿山荘東京	参加者同志懇親

2. 思い出アルバム 平成27年（2015年）年6月「佐渡相川・宵乃舞」

宵乃舞

佐渡市相川
若波会と共に

軒先のボンボりに灯りがともる頃
京町通りから佐渡奉行所へと
“相川音頭流し”が続きます



(右端側から金井、原、元井、川村、星、星野：最後列)



支部報告

総会・懇親会

総会・懇親会担当統括理事 平山 守(S46M)

令和7年度の総会・懇親会は7月5日（土）に例年どおり、御徒町のオーラムで開催を予定しております。同窓の皆様のご参加をお待ちしております。

今年は昨年度の総会における反省でもあります”懇親会での会員相互の歓談時間にもう少しゆとりを持たせて欲しい”との点に留意して進めることにしております。

過去の総会・懇親会の模様は「東京支部同窓会のホームページ」に掲載しておりますので是非ご覧下さい。



支部会計報告

会計担当統括理事 今井 広(S46M)

晩春の一時、皆様いかがお過ごしでしょうか。令和6年度も多数の会員皆様から同窓会費と寄付を頂戴しましたこと、心から感謝申し上げます。この会を支えているのは会員皆様からいただいた同窓会費と寄付であり、今後も支部活性化のために大切に使用させていただきます。今後ともご支援賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

令和6年度寄付者一覧（敬称略）

No.	会員番号	氏名	金額	No.	会員番号	氏名	金額	No.	会員番号	氏名	金額
1	S24M004A	稲田 稔	2,000	17	S32M035B	三木 逞弘	1,000	33	S39M031A	堀 清市	1,000
2	S25M0370	疋田 精俊	3,000	18	S32M005B	石原 兼之	3,000	34	S40C0130	加藤 智	8,000
3	S26M0200	佐野 昭一	1,000	19	S33E0390	山川 昭男	3,000	35	S40M034B	細川 勝	1,000
4	S28M023A	土田 進	3,000	20	S33C0220	反町 賢吉	1,000	36	S41E014A	桑原 克己	8,000
5	S28W0290	並木 政治	8,000	21	S34W0170	島田與五郎	3,000	37	S42M025D	白井 等	1,000
6	S29E0360	樋口 昭	3,000	22	S34C0340	星野 卓史	2,000	38	S44M038B	横山 実	10,000
7	S29E0260	土田 弘明	1,000	23	S34M008A	大淵 平佑	1,000	39	S44M038C	山崎 正二	3,000
8	S29E0270	富沢 敏範	6,000	24	S34M039A	吉荒 健司	1,000	40	S46e0240	野崎 敬策	8,000
9	S29M041A	山谷 重雄	1,000	25	S36E0140	川村 吾一	3,000	41	S46M003D	今井 広	3,000
10	S30E0330	星 清善	1,000	26	S36E0370	星 富夫	3,000	42	S46M027A	原 勝英	3,000
11	S30W0060	内山 正之	1,000	27	S36E0180	櫻井 明	2,000	43	S46E017B	佐藤 満	1,000
12	S31W0120	片桐 謙一	1,000	28	S36E0350	廣井 均	3,000	44	S46M014D	児玉 幸一	1,000
13	S31E0080	大関 稔	2,000	29	S37e0280	高橋 大二	2,000	45	S46M020C	塩入 晴夫	1,000
14	S31E0240	近藤 宗一	1,000	30	S37e0150	木間 勝	3,000	46	S48e0260	速水 均	5,000
15	S31E0130	光野 糸夫	1,000	31	S37e0160	齋藤 衛	3,000	47	S48E026B	永見 健治	2,000
16	S32E0370	宮田 隆	3,000	32	S37M011B	中村 秀和	3,000	合計：131,000			



令和6年度（2024年） 訃報（2025年3月31日現在）

名簿担当統括理事 塩入 晴夫(S46M)

次の方々について、ご逝去の連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

卒業年	修業科	会員No.	お名前	ご逝去 年月日	備考
昭和23	機械	S23M0280	田中 豊	ご逝去日不明	
昭和28	染色	S28W0290	並木 政治	令和6年12月	
昭和31	染色	S31W0120	片桐 謙一	令和7年1月29日	
昭和32	機械	S32M0025B	長谷川 成之	令和6年6月29日	
昭和34	機械	S34M025A	高野 勝志	令和5年12月1日	
昭和38	電気	S38E0410	山本 久	ご逝去日不明	
昭和41	電子	S41e0210	志賀 護	令和3年8月13日	



編集後記

広報・記録担当統括理事 野崎 敬策(S46e)

広報誌「新潟県立長岡工業高等学校同窓会 東京支部 支部だより」編集委員長を拝命し2年目となります。令和6年の22号では特集として“特別寄稿”を会員の方以外から投稿いただきました。また、会員の高齢化が進み22号では文字サイズを大きくいたしました。



本年は長工創立123周年となります。母校では新しく諸橋校長が就任されました。また、同窓会本部では長年にわたり務められた山下会長に代わり山崎新会長が就任されました。新会長の山崎氏は小生と同期（S46年卒）であり親近感を覚えております。

令和7年の特別寄稿にはBMXで世界的に活躍されている早川起生様、音楽界で活躍された世界的テノール歌手：故永田峰雄氏を取り上げさせていただきました。小生もドイツリードや魔笛の舞台に立ち、またカンツォーネやシャンソンも歌うので生前の永田氏にお会いし、生の美声を聴きたかったと思った次第です。改めて多種多様な分野で活躍されている同窓生に感激させられました。

東京支部では“支部旗”を制作したことが特筆すべきことです。

また、長年東京支部の支部長を務められた並木様が永眠されました。前支部長の樋口顧問から追悼文をいただき感謝申し上げます。

今後とも会員の皆様の心を繋ぐ広報誌「東京支部だより」を愛読いただき、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。あわせて皆様からの投稿、感想をいただければ幸いです。



編集委員

- 委員長 野崎 敬策 (S46e) 委員長補佐 川村 吾一 (S36E)
- 委員 塩入 晴夫 (S46M) 委員 永井 利矢 (S44M)
- 委員 今井 広 (S46M) 委員 奈良場 慶三 (S46E)
- 委員 加藤 智 (S40C) 委員 速水 均 (S48e)

東京支部ホームページの閲覧は
「長工同窓会東京支部」で検索するか次の URL
を入力 <https://choko-tokyo.sakura.ne.jp>

スマートフォンは右の
QR コードから

